2020-2022 プロジェクトの説明

マダガスカルについて学ぼう

教育による女子のエンパワーメント： 第3段階

© UNICEF Madagascar/2017/Abela Ralaivita

2020-2022年の資金資金援助: 米ユニセフへ50万米ドル

目 標:
思春期の女子を対象としたアプローチを通じて、マダガスカルにおける教育とジェンダーの不平等に取り組みます。.

具体的な目標:
・より多くの子どもたち、特に小学校を卒業した段階で中退した女子たちが、それ以降の教育を受け、学校に留まることができるようにします。
・マダガスカルの教育制度が、学習成果を向上させるために質の高い教育を提供できるようにします。

プロジェクト「マダガスカルについて学ぼう」は、マダガスカルの 排除された弱い立場の子供たち、特に女子のための機会を作りだす統合教育プログラムです。
このプログラムはアンドロイ地方とアッシモ・アンドレファナ地方で実施され、小学校から中学校へと進学する子どもたちを支援します。
マダガスカルでは、6〜10歳の子どもの4人に1人が小学校に通っておらず、11〜14歳の3人に1人が中学校に通っていません。プロジェクト「マダガスカルについて学ぼう」は、弱い立場にある女子たちに、安全で保護された環境の中で教育を受ける権利を実現する機会を提供することで、貧困を減らし、最終的にはマダガスカルの次世代の女性リーダーたちのエンパワーメントを目的としています。

ちのエンパワーメントを目的としています。プロジェクト「マダガスカルについて知ろう」の包括的なアプローチは、教育、社会的保護、子どもの保護、衛生などの複数の分野で、対象となるこの2つの地域の思春期の若者たち、特に女子が直面している制度的課題に対処します。

今後2年間で、合計45,214人の子どもたち（52%が女子）がこのプログラムの恩恵を受けることになります。

2016年から2020年まで、国際ゾンタはプロジェクト「マダガスカルについて学ぼう」に200万米ドルを拠出し、アノシー、アンドロイ、アツィモ・アンドレファナの各地域でのプログラムに資金を提供してきました。主な結果は下記の通りです。

これまでの結果

- 18歳未満の子ども4,793人を養育している**1,564世帯**が条件付き現金給付を受けました。
- 研修や教材を通じて訓練を受けた3,000人以上の教師が**72,000人の生徒**（36,585人が女子）を教えました。
- **200人の子どもたちが4つの新しい教室で学びました。**
- **約16,800人の地域住民**が、小学校卒業後の教育の重要性、児童婚がもたらすリスクや不利益、児童保護問題に関心を持つようになりました。
- 中学校で子どもの権利を推進するために**88の児童クラブ**が設立されました。
- 退学した**937人**の子供たちが補習授業を受け、復学しました。
- アツィモ・アンドレファナ地方の109の中学校の**396人の教師**は、27人の教育支援提供者から教育実践力を習得しました。

unicef USA

for every child

戦略

- 学習環境を改善し、中等教育へのアクセスを拡大するために、トイレ、給水場、備品を完備した2つの教室を建設します。
- 中学校に通っていない子供たちを特定し、学業の遅れに追いつき、学校に復籍できるよう補修授業を提供します。
- 女性世帯主に毎月または隔月で現金を支給し、家族が食料、水、医薬品などの生活必需品を満たすことができるようにすることで、家族が直面する貧困を軽減し、他の家計収入を教育費に回せるようにします。
- 児童保護活動を通じて、学校での暴力問題や、地域における暴力と学校における暴力との相互関係の問題に取り組みます。
- 教員や学校関係者を対象に、子どもの権利に関する研修支援を継続します。
- 1校につき1つの児童クラブを設立し、クラブ指導者を養成し、学校や地域社会における子どもの権利や保護に関する意識を向上させるためのセッションを設け、行動計画を立てます。
- 地域レベルでの暴力に対する行動規範の採用を支援します。
- 学校と地域社会の両方で暴力の被害者となっている子どもたちのための照会・取次ぎサービスを強化します。
- 教育アドバイザー、トレーナー、校長を養成し、効率的で結果に基づく教育支援を提供します。
- カリキュラム改革に沿った学習教材や教材を学校に配布します。
- 訓練を受けたトレーナーと教育スタッフによる教師の現地訓練を提供します。訓練には性と生殖に関する健康やライフスキル（日常生活に生じる様々な問題に対して効果的に対処する必要な能力）が含まれています。
- ユニセフの地域技術アシスタント（現地駐在員）を通して年間作業計画の有効的な活用方法、地域統計年鑑の作成、必要なモニタリング、評価の仕組みの構築を支援します。
- 思春期の子供たちとの話し合いの中で、いかに暴力を防止するか、いかに自分自身と仲間を守るか、いかに学校で勉学に励む習慣をつけるかを指導するライフスキルセッションを支援します。

期待される成果

約100人の子どもたちが、トイレ、給水場、設備の整った2つの新しい教室で学びます。

毎年100の学校に教材が支給されます。

100人の校長が研修を受けます。

教育支援担当者による100回の追跡調査が実施されます。

750世帯が条件付き現金給付の恩恵を受けます。

700人の子どもたち（少なくとも50%が女子）が補習授業に参加した後、学校に復籍できます。

3,500人の子どもたちが、自分たちの幸福と健全な発達を支えるライフスキルに関する知識を増やします。

8つの学区が、学校での暴力に反対する行動規範を実施し、暴力や搾取の被害児童のための機能的な受け入れと照会の仕組みを開発する支援を受けます。

暴力問題について学校や地域社会の意識を高めるための行動計画を実施するために、114の児童クラブが設立されます。

学校や地域社会で暴力や搾取の危険にさらされ、被害を受けている1,600人の子どもたちが、医療、法律、社会的支援の恩恵を受けます。